

日立市工業用水道事業の紹介

○事業の主旨

旧十王町は常磐炭田の最南端に位置し、昭和の初めから石炭産業が町の基幹産業として発展してきたが、エネルギーの変化に伴い昭和48年閉山に追い込まれ、町としても石炭企業に変わるべく企業の誘致を推進するため工業団地を計画した。

○事業の経緯

平成2年には地域振興整備公団により伊師工業団地が造成され、平成3年4月より十王町工業用水道事業（計画給水能力930m³/日）として給水を開始した。

また、座禅山工業団地は昭和46年に民間企業により4社に対し分譲がなされ、当初浅井戸での水量の確保が困難になったことから、茨城県と協議した結果、2級河川十王川から取水することとなり、水利権についても十王町が取得することから、平成4年度に十王町工業用水道事業として編入（計画給水能力1,125m³/日）された。

その後、茨城県が施行する十王川総合開発事業十王川河川改修により、座禅山取水場の移設が余儀なくされたため、新たに同規模の取水場を隣接地に建設し、併せて取水方法も維持管理等を考慮し、平成11年度に従来の表流水から伏流水に変更してきた。

平成16年11月1日には、日立市と十王町が合併し、日立市が旧十王町の十王町工業用水道事業の全部を引き継ぎ、日立市工業用水道事業となった。

○工業用水道施設の概要

伊師工業団地及び座禅山工業団地は十王川の伏流水を取水し、伊師団地については、十王川河川に隣接した伊師配水場へ導水し、団地内にはφ200mmの配水管、約1,800mで供給を行っている。また、座禅山団地については、取水場から、φ250mmの送水管で約750m離れた配水場へ送水し、団地内にはφ100mmの配水管、約700mで供給を行っている。

○ユーザーの概要

(平成19年3月末現在)

業種	契約件数	契約水量 (m ³ /日)
一般機械	2	50
電子	2	85
電力	2	125
製紙	1	25
化学	2	50
その他製造業	1	25
その他	1	10
合計	11	370

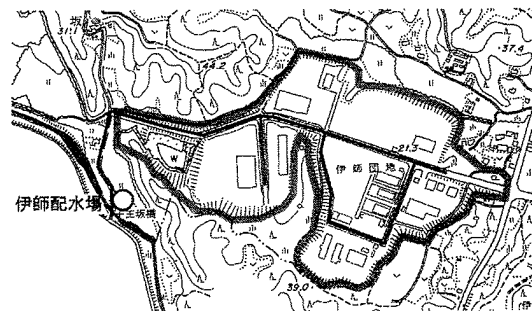
○事業の特徴

当該事業では浄水施設を整備していないが、水源である十王川は豊かな自然環境にあり、河川水質が良質であるため、安全性を確保しながら供給することができる。

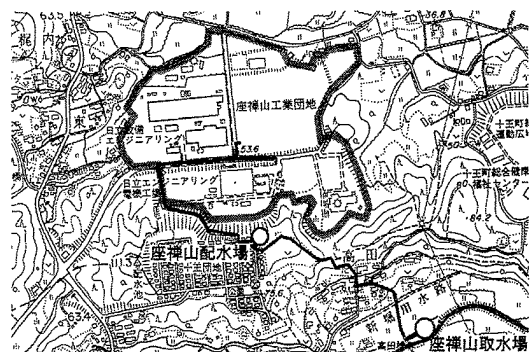
○日立市企業局のホームページ

<http://www.city.hitachi.ibaraki.jp/kigyo/>

○給水区域図



伊師工業団地



座禅山工業団地